



kvadrat

東京デザインウィーク期間中、ミラノサローネ2014で発表され話題を呼んだ 「Divina/ディビーナ」作品の一部を「Kvadrat/クヴァドラ」ショールームにて展示

デンマークで1968年に創業した「Kvadrat/クヴァドラ」は、多くのインテリアブランドが家具の張り地として採用しているテキスタイルメーカーです。Kvadratが生み出す最高品質のテキスタイルは、世界の美術館、ホテル、オペラハウスなどでも採用されています。Kvadratのテキスタイルコレクションは、家具の張り地、カーテン、アコースティックパネル、ラグなどで構成され、現在150のデザインパターンと3,500色のカラー展開をしています。

2014年10月に開催される東京のデザインウィークでは、今年4月にミラノサローネで発表され反響を呼んだ、Kvadratのアイコンともいえるテキスタイル「Divina/ディビーナ」を用いて制作された作品の一部をKvadratのショールームにて展示します。

Divinaは、1984年デンマーク人グラフィックアーティストのFinn Sködt（フィン・スクッド）により制作されました。美しく滑らかな表面を持ち、柔らかく肌触りの良い3つの生地「Divina/ディビーナ（56色）」、「Divina Melange/ディビーナ・メランジェ（25色）」、「Divina MD/ディビーナ・エムディー（27色）」で構成され、すべて100%ウールを使用しています。フェルトのような質感は、ウールを平編みしたあと高温の機械処理をかけ収縮させることで生まれ、有機的なフォルムの家具にも最適です。Divinaは「絶妙さ」、「神々しさ」を意味し、素材が表現する色彩からヒントを得て名付けられました。

■ Divina

Divinaはユニカラー（単色）で構成されています。1984年に発表されて以来、細かい色調の調整も行われ、エレガントで控えめなトーン（カシミア、ベージュ、ブラウン、オリーブ、グレー、ホワイト、ブラック）から、より鮮やかなトーン（レッド、オレンジ、イエロー、ブルー、グリーン）へと変遷を重ねてきました。

■ Divina Mélange

Mélange(メランジェ)とは、混ぜること。Devina Mélangeは後染め製法を採用し、ふたつの基本色（グレー、ベージュ）を輝くように鮮やかな色に染め上げ作られます。

■ Divina MD

Divina MDは色を混ぜ合わせて構成されています。ダークマリーンとピンク、グレーとマリンブルー、キャメルとレッドもしくはマリンブルーなどのクラシックな色と、鮮やかな色彩を混ぜ合わせた色調が特徴的です。遠くから見ると単色に見えますが、近づいてみると違う色が共存していることに気づきます。とくに、Divina MDのマゼンタやダスティープークは、伝統的な「赤」の在り方を塗り替えるような柔らかいトーンになっています。Divina MDを構成する色に近い色調の生地や家具と合わせることでさらに引き立ち、合わせた家具が浮かび上がって見えるような効果をもたらします。

4月に開催されたミラノサローネでは、世界で活躍する22組のデザイナーによってDivinaを用い再構築した作品が誕生しました。
参加デザイナー：Lindsey Adelman, Werner Aisslinger, Anton Alvarez, BIG-GAME, Duangrit Bunnag, Gonçalo Campos, Jonas Design, François Dumas, Martino Gamper, Graphic Thought Facility, Richard Hutten, Silvia Knüppel, Max Lamb, Peter Marigold, Studio Minale-Maeda, Philippe Nigro, Klemens Schillinger, Muller Van Severen, Jerszy Seymour, Robert Stadler, Katharina Wahl, Bethan Laura Wood。

東京デザインウィーク展示予定作品

作品名 : Smock / スモック

デザイナー名 : Max Lamb / マックス・ラム

デザイン・コンセプト

コーンウォール出身のマックス・ラムは、耐久性に優れたDivinaをワークウェアに応用することに関心抱きました。「フィッシャーマンズ・スモック」は、イギリスの漁師が作業の際に羽織る必要不可欠なアウターとして、100年以上にわたり着用されてきたワークウェアです。機能性と実用性を併せ持つ衣服の規範例であり、画家、彫刻家、陶芸家や職人たちにも愛用されました。

「Smock」が提示するのは、Divinaの新たな活用方法です。断熱性や通気性に優れ、天然の撥水・速乾素材であり、ほつれや摩擦に強い生地の特徴は、体を保護するために長時間着用する作業着に最適です。また、Divinaは高い技術力をもって織られたフェルトのような素材で、難しい状況下においても高い耐久性と美しさを両立しています。

「Smock」の短い袖は、裾の濡れや汚れを防ぎ、ゆったりとしたカットと高めに作られた襟は最高の着心地を提供しつつ、いかなる気候下でもしっかり身を守ってくれます。無駄を最小限に抑えるため、「Smock」はミニマルで幾何学的なパターンを採用し、1.2メートルほどの少ない量の生地から作られています。

Max Lamb / マックス・ラム

現代を生きる職人、マックス・ラムの家具デザインは、製造技術への深い造詣、素材への尊敬、そして作り手としての確かな技能により支えられています。ものを作り出す風景を夢見ていた幼少時代を経て、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(RCA)のデザインプロダクト科に入学。卒業後工房での制作を中心としたデザインワークを開始しました。ラムは、伝統的な素材や技法と革新的なもの、両方を探求し、基礎的なデザインに実験性をプラスした、実直かつ親しみやすい家具やプロダクトを制作しています。現在は、RCAのデザインプロダクト科で教鞭をとりながら、世界中の企業や組織からの招聘を受け、デザインワークショップを開催しています。

www.maxlamb.org

作品名 : Afternoon Nap / アフタヌーンナップ

デザイナー名 : Martino Gamper / マルティノ・ガンパー

デザイン・コンセプト

マルティノ・ガンパーは、2013年に発表された家具メーカー・モローゾのソファやアームチェアにDivinaの生地を採用しました。その後コラージュ作品の一部としてもDivinaが使われています。本プロジェクトでは、彼が続けてきた思考実験を生かしながら、Divinaの可能性を探りました。

「様々な用途に使用可能な応用性の高さや多機能性をもった生地であることに惹かれます。無限のカラーバリエーションがありながら、シンプルで耐久性も高いのです」。彼は、Divinaの生地を裁断し組み合わせることで、畳とマットレスを融合させたような新しいフォルムとパターンを持ったプロダクトを完成させました。

「彩り豊かで複雑な模様生地をまとったシンプルなフォルムは、私に心地よい午睡の風景を想像させてくれます。」

Martino Gamper (マルティノ・ガンパー)

Martino Gamper / マルティノ・ガンパー

デザインとアートを横断する制作活動を行うマティノ・ガンパーは、展示デザイン、インテリアデザイン、1点ものからマスプロダクトまで幅広く手がけ、世界のインテリア業界でも最先端を行くプロダクトを発表しています。ガンパーはこれまで、グラスゴのモダン・インスティテュートやロンドンのビクトリア&アルバート博物館、ジュネーブ現代アートセンターなど、様々な場所で作品やプロジェクトを発表。ロンドン・テムズ・ゲートウェイ開発公社と共同で、ビクトリアパークとオリンピックパークを繋ぐ連絡道路沿いのベンチもガンパーのデザインによるものです。

ガンパーは、2011年にモローゾ現代アートアワードを受賞したほか、2008年には「100 Chairs in 100 Days」プロジェクトでブリット・デザインズ・オブ・ザ・イヤーの家具賞も受賞しています。

www.martinogamper.com

Divina Exhibition

10月25日（土）-11月4日（火）

営業日. 9:00-18:00 土・日・祝日休み

Kvadrat showroom

東京都港区南青山3-4-6 Aoyama 346 #103

Tel. 03-6455-4155 Fax.03-6455-4156

www.kvadrat.dk